

第33回兵庫県学ぶ高齢者のつどい中央大会の結果概要について

兵庫県内の学ぶ高齢者が一堂に会し、日ごろの学びの成果を発表し、市町の垣根を越えて交流を深める「第33回兵庫県学ぶ高齢者のつどい中央大会」が11月30日（金）、嬉野台生涯教育センター（加東市）で開催されました。約400名という多くの高齢者が集い、学びの深化と交流の輪が広がりました。

【午前の部：開会式・高齢者の主張】

大会は、大会実行委員長である加東市の安田正義市長の開会のことばに始まり、主催者代表の北播磨県民局西川嘉彦副局長、来賓代表の藤本百男兵庫県議会議員から、学ぶ高齢者への期待と激励を込めた「挨拶・祝辞」が述べられました。



開会式

続く「高齢者の主張」では、県内8地域からの代表者が、「学びと生きがい」をテーマとして発表を行いました。

発表者はそれぞれ、これまでの人生経験や高齢者大学での学びを通じて得た思い、これからの人生を前向きに歩んでいきたいという希望を、熱心に、時にユーモアを交えて語り、参加者から大きな拍手が送られました。



主張発表

【午後の部：記念講演】

午後には「播磨国風土記の世界を巡る」と題し、播磨学研究所運営委員兼研究員の埴岡真弓氏による記念講演が行われました。

講演では、風土記とは何か、五風土記の1つで現存する貴重な文献である播磨国風土記の魅力を参加者にわかりやすくお話いただきました。特に大会会場である北播磨を中心とした内容だったため北播磨地域を知る良い機会となり多くの参加者にとって興味深く、学ぶ意欲をかきたてる有意義なものとなりました。



記念講演

【作品展】

嬉野台生涯教育センター体育館では「作品展」も開催され、書・日本画・洋画・工芸・写真・彫刻・手芸の7部門に、県内各地域から選出された優秀作品合計142点が展示されました。

来年の中央大会は西播磨文化会館（たつの市）での開催を予定しています。



作品展